

★きづっこ新聞★

Vol.31 <レプトスピラ症と犬混合ワクチンについて> 担当VT 生田

こんにちは！お久しぶりのきづっこ新聞になりました^^☆

遅くなってしまいましたが、新しいスタッフを紹介します！

昨年よりお手伝いしてくれていた田中晴子さんが、
春からきづ川スタッフとして頑張ってくれています♡

田中さんより一言いただきました～（●^o^●）

「きづ川に来院される動物さん達や飼い主さまとより良い
コミュニケーションを取りたいと思っていますので、
どうぞお気軽にお声かけ下さいね(^)」

田中家にはチワワのそらちゃんとアメショのちろちゃんが♡かわいい～♡



背の高い先生と並ぶと身長差がすごいです・・・(笑)
スタッフ一同、これからもよろしくお願いします☆☆

突然ですが・・・

昨年「レプトスピラ症」という病気の発生が近隣の地域で確認されました。

どのような病気なのか皆さまご存知ですか・・・??

今回はその「レプトスピラ症」と「わんちゃんのワクチン」についてお話して
いきたいと思います☆(^o)

今年に入ってから当院にワクチン接種で来て頂いた飼い主様には、「11種混合
ワクチンにされませんか？」というお話しをさせていただいています(*^^*)

今までは混合6種と8種のワクチンを常備していたのですが、

その「レプトスピラ症」という病気予防の強化を目的として、
「11種混合ワクチン」も常備するようになりました(^)
では、「レプトスピラ症」と「混合ワクチン」には
どのような関係があるのでしょうか・・・??

レプトスピラ症とは

「レプトスピラ症」は「レプトスピラ」という細菌によって
引き起こされる感染症で、犬だけでなくウシやウマなどの哺乳類、
人間にもうつる人と動物の共通感染症です！(>ok)

☆どうやって感染するの??

*レプトスピラの菌は腎臓に定着して、尿から排出されます。

主な感染源はネズミなどのげっ歯類です。ちなみにネズミ

自体は感染していても症状はでません～(*_*)

ネズミの尿や、尿で汚染された水・土壌などを飲んだり舐め

たり、皮膚から直接菌が入って感染することもあります！

（傷口などがあればさらに危険です！（°_°））

また、すでに感染しているワンちゃんの尿から感染する可能性も考えられます。

田んぼや田舎のあぜ道の散歩、川遊びなどお外でよく遊ぶ機会がある

ワンちゃんは特に注意が必要な病気なんです><

ちなみに、レプトスピラの菌自体は土の中でも半年以上感染する力を持つこと
ができると言われています(+_)ひゃー!長いですね...!!



☆感染したらどうなるの??

*感染しても症状がでないことも・・・不顕性型(ふけん
せいがた)といって、感染していても症状がでずに（または
軽い症状で）自然に治ってしまう場合も多くあります。

（しかし感染はして尿の中にはレプトスピラの菌がいるため、周囲に感染を広げてしまう可能性があります(;:))

また、猫は感染してもこの不顕性型で症状が出ないことが
多いようです。



* 感染した後3～14日程度の潜伏期間があり、急な発熱や食欲不振、嘔吐や血尿血便、黄疸、結膜炎、脱水症状、肝障害、腎障害、などなど…軽症～重篤まで色々な症状があります。急性に状態が悪くなる場合であれば早ければ発症してから3、4日で亡くなってしまう事もある怖い病気です(/;))

☆治療法は??

症状の軽減を目的とした対症療法での治療が行われ、点滴や抗生物質の投与など、入院での治療が必要な場合もあります。

☆予防はどうすればいい??

ワンちゃんではレプトスピラ予防のできる年に1回のワクチン接種が有効です!(^^)

混合ワクチンについて

今年から11種という数の多いワクチンをお勧めさせていただいているという話を最初にしたのですが、そもそも6種/8種/11種のワクチンは何が違うのでしょうか??(°°)

まず、6種ワクチンで予防できる病気というのは8種、11種にも同じように含まれています。基本のセット…というようなイメージでしょうか^^♪

<6種ワクチンで予防できる病気>

ジステンパーウイルス感染症：鼻水くしゃみ、下痢嘔吐や神経症状など、発熱性の病気。

犬伝染性肝炎：主に発熱、嘔吐、下痢など。肝臓の炎症が起こる病気。

犬アデノウイルス感染症：犬伝染性咽頭気管炎ともいい、主に呼吸器症状がでます。

犬パラインフルエンザウイルス感染症：他の病原体と混合感染する事で重症化

犬パルボウイルス感染症：激しい下痢嘔吐など、感染力が強く死亡率も高い病気です。

犬コロナウイルス感染症：下痢、嘔吐など胃腸炎を起こす感染症です。

この基本の6種ワクチンに加え、「レプトスピラ症」の予防が含まれているのが8種と11種のワクチンとなっています。

レプトスピラ症は世界ではなんと！250種類以上の血清型がありますが(多い!!(°°))、日本では現在そのうちの5種類の型が確認されています。

ですので、⑥種+レプトスピラが②種類=⑧種ワクチン
⑥種+レプトスピラが⑤種類=⑪種ワクチン
という事になります(*^_^*)

昨年、近隣の地域でレプトスピラ症を発症し残念ながら治療の甲斐なく亡くなってしまったワンちゃんが何頭かいらっしやいます。確認されたレプトスピラの血清型が8種ワクチンに含まれないものの可能性があるため、ワクチン接種で来院されたワンちゃんの飼い主様には、日本で確認されているレプトスピラ5種類の予防ができる11種ワクチンでの予防をされませんか？というお話をさせていただいています。



種類が増えているからアレルギーや副作用もひどくなるのでは…?とご心配の声も頂きます。

残念ながらアレルギーなど副作用が出る可能性は0%ではないですが、11種なので可能性が高くなるわけではありません。今までと同じ程度の可能性があると考えていただき、ワクチン接種した当日は激しい運動を避けてお家でゆっくりさせてあげて下さいね…(*^_^*)♡

さて怖いお話もたくさんしましたが、レプトスピラ症はその病気が確認された場合、都道府県に報告をしないといけない届出伝染病という病気に指定されていて、普段からとても発生率が高いという病気ではありません。

(もちろん予防はして頂きたい病気です!^^)
今までワクチンを接種してアレルギーが出たことのあるコや、今まで通りのワクチンを希望される患者様には6種や8種のワクチンもご用意しています。

ワクチンについて何かご不安なこと、ご相談などがあればお気軽にスタッフや獣医師にご相談くださいね(●^o^●)

